

宮古から全国へ

さんまゆうパック出発式

「さんまゆうパック」の出発式が8月31日宮古市で行われました。20年以上前から行われている宮古のさんまゆうパック、去年は震災の影響から2割近く取り扱いが減少。今年は8月20日から、受付が開始され第一便には合わせて2,237ケースが全国に向けて発送されました。今年は10月末まで受け付け、合わせて3万ケースの取り扱いを目標にしています。(8/31 ニュースエコーより)



大船渡発 漁家が案内

海から見る被災地ツアー

被災地の様子を海から見てもらおうという「海からの被災地ツアー」が始まるのを前に大船渡市吉浜でモニター運航が行なわれました。今回はおよそ30人の参加者を対象にメンバーが語り部となり震災当初の様子を説明しました。障害物のない海から眺めると海岸線近くの様子もよく分かり、漁家たちの説明も好評でした。ツアーは早ければ10月にも実施される予定です。(8/31 ニュースエコーより)



新おおつち漁協

定置網漁スタート

破綻した漁協に代わり3月に設立された大槌町の「新おおつち漁協」が5日定置網漁の初水揚げをしました。漁協経営の屋台骨の復活に関係者は期待を寄せています。定置網漁船は漁協が雇用した20人を乗せ、朝4時過ぎに出港。25分ほどで港の東の「沖野島漁場」に到着し網起こしを開始しました。大漁旗をかかげて港に戻った漁船は、サバやソウダガツオなど4トン近くを水揚げ。入札の結果、サバは1キロ当たり50円の高値がつけられました。鮮魚店や仲買人も主力のサケの季節を前に定置網漁復活を喜んでいました。(8/31 ニュースエコーより)



みやこ災害FM発

「さんりく元気ラジオ！」



臨時災害FM局をつなぐIBCラジオ「さんりく元気ラジオ！」(毎週水曜日・ワイドステーション・午後3時半～)、5日はみやこ災害FM発「宮古のうんめーもん、みんなで作って食べっぺ」という自主制作番組を紹介。これは仮設団地などで一人暮らしをしているお年寄りのために、みんなで料理を作って美味しく食べてもらおうと、宮古地方の食の匠の会の皆様のご協力で行っているものです。仮設で暮らす方々が生き生きと料理し、食べている様子を伝えてくれました。

「元気発信！ラジオ希望堂」



『被災地で前向きに取り組んでいる人の姿を紹介しながら、元気を発信していこうという内閣府提供「元気発信！ラジオ希望堂」。(ラジオ毎週土曜午後0時40分～)』

9月8日は、宮古市の「シートピアなあと」の、関口茂さんに震災から1年半が経とうとする今と今後の展望を伺います。

じゃじゃじゃTV

いわて希望の一步スペシャル

9月12日(水)19時～生放送

岩手県の千葉副知事と三陸鉄道の望月社長をスタジオに迎え、三鉄の復旧工事の情報などをお伝えします。写真は南リアス線沿線の大船渡市三陸町。線路の土台の「のり面」に凝らされた工夫や、無人駅の清掃を続けてきた沿線のご夫婦取材の様子です。



「IBC復興支援室だより」では、ラジオ、テレビなどIBCを通じて放送する、震災復興に関するさまざまな情報をピックアップし、リリース等を通じて定期的に発信・紹介します。
IBC復興支援室事務局(ラジオ放送部内) 019-623-3122